

## II 肉用牛

### 1. 改良体制

- 種雄牛は、各県毎に造成され、基本的に県内で選抜・利用。そのほか、民間事業者や、県域を越えて広域的に能力評価を行い、広域的に利用する種雄牛を選定する取組、家畜改良センター等が造成した候補種雄牛を精液供給団体が検定・選抜し、全国的に精液を供給する取組等が行われている。
- 選抜され改良の基幹となる優良な雌牛と優良雄牛を計画的に交配させ、その産子を候補種雄牛として、後代検定により産肉能力を調査し、その結果から選抜していくという流れ。

①計画交配から妊娠・分娩  
まで約1年



計画交配

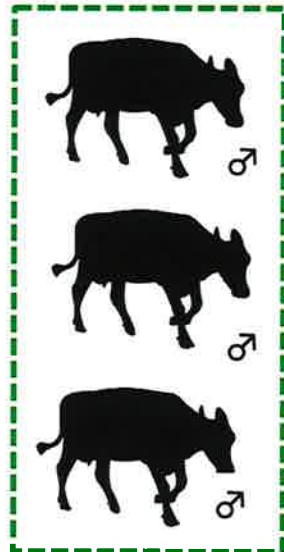
保留  
選抜



エリート雌牛

一般雌牛  
(繁殖農家等)

②直接検定による  
選抜で約1年



候補種雄牛

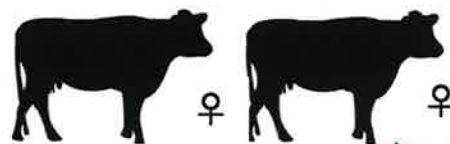
直接検定

③後代検定のため、調整交配で約1年、  
調査子牛の肉質評価まで約3年



候補種雄牛

調整交配



調査子牛



肉質評価

種雄牛供用までに①～③を  
経て、評価期間等を加えると、  
約5～6年必要。

後代検定

精液の供給

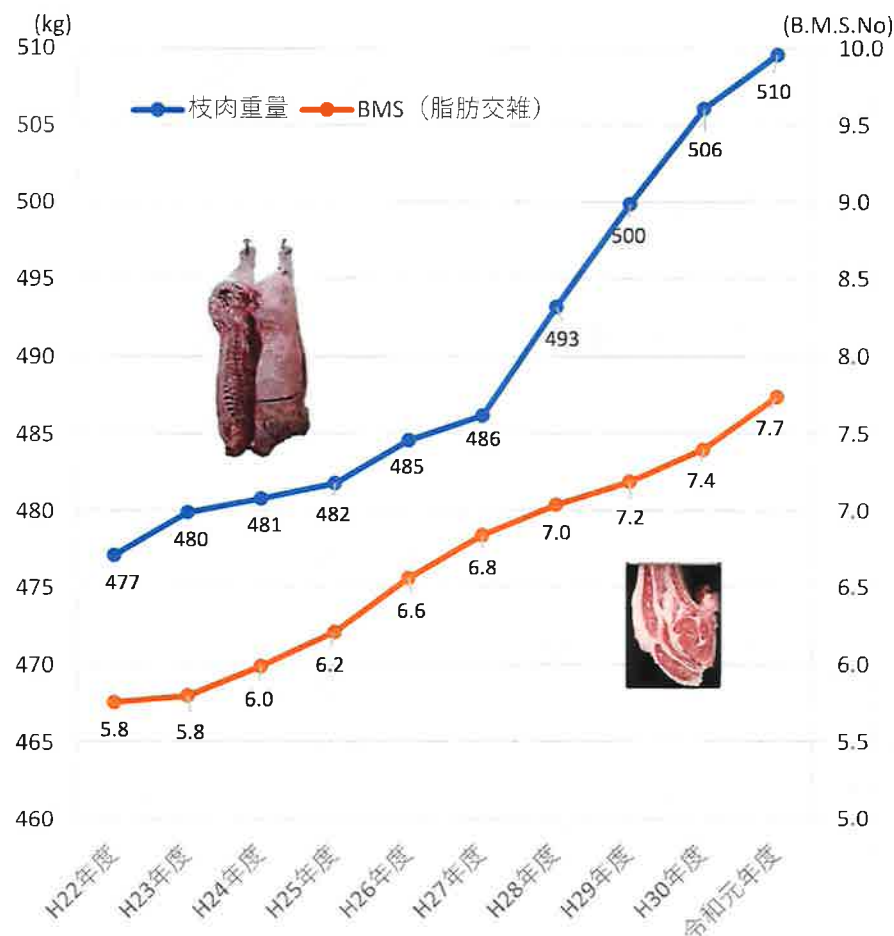
## 2. 能力の推移

- (1) 肉用牛の産肉能力は、遺伝的能力評価の普及により、枝肉重量、脂肪交雑ともに向上。
- (2) 雌牛の繁殖能力は、初産月齢は着実に早期化してきたが、近年横ばい。分娩間隔の短縮が課題。

## 3. 新たな家畜改良増殖目標(令和12年度目標、令和2年3月策定)のポイント

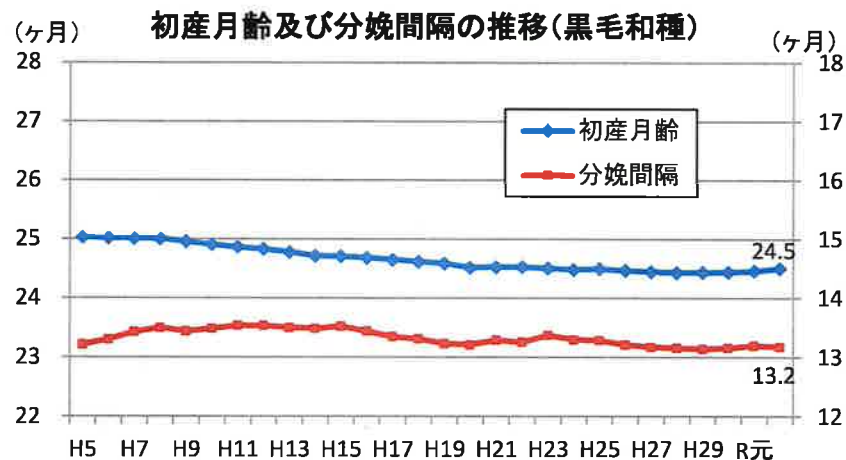
- (1) 脂肪交雑は、現状の改良量を引き続き維持するとともに、歩留基準値等の肉量に関する形質や不飽和脂肪酸等の向上に向けた種畜の選抜・利用を推進。
- (2) 繁殖形質に関するデータ収集等を推進し、的確な遺伝的能力評価に基づき、繁殖性に優れ、生涯生産性の高い種畜の選抜を推進。
- (3) 生産コストの低減を一層推進する観点から、引き続き日齢枝肉重量等の遺伝的能力の向上を図る。

### ○ 黒毛和種(去勢)の肉質形質の推移



資料：(独)家畜改良センター「枝肉成績とりまとめ」

### ○ 雌牛の繁殖能力



資料：(公社)全国和牛登録協会

### ○ 新たな家畜改良増殖目標(令和2年3月策定)

#### 【繁殖能力目標数値】

(単位：ヶ月)

区分	初産月齢	分娩間隔
現在	24.5	13.2
今回目標 (令和12年度)	23.5	12.5